

台風第25号に対する農作物の技術対策

令和8年9月18日
農業技術課

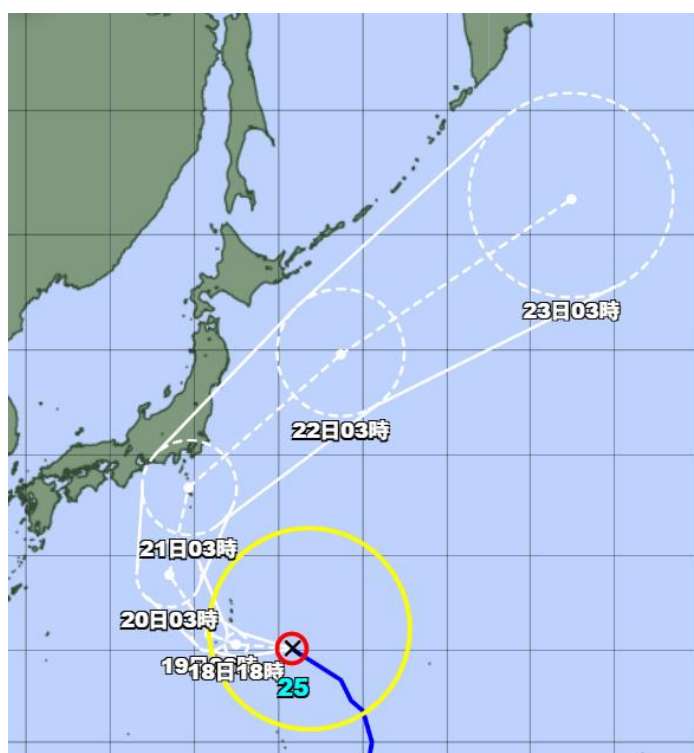
台風25号は、日本の南にあって、時速45キロで北に進んでいます。

中心気圧は980ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は30メートル、最大瞬間風速は40メートルとなっています。台風は、今後発達しながら日本の南を北に進み、21日に、関東地方に接近し台風の影響を受ける可能性があります。

予想進路の西側を進んだ場合、本県への影響も大きくなる恐れがありますので、最新の台風情報を確認し、対策の徹底をお願いします。

○気象庁 台風経路予想図 18日6時時点

台風25号は、21日に山梨県に接近する見込みです。



○共通

- ・ 台風の進路や接近に伴う降雨予想など、最新の気象情報に十分注意する。
- ・ 9月上旬から降雨が続いており、台風の接近により前線が刺激された場合、更なる大雨が発生する恐れがあるため、早めの事前対策を徹底する。
- ・ 台風等の接近時は、強風や大雨などにより人的被害の危険性が高まるため、大雨や強風が治まるまでは、見回り等は行わない。
- ・ 大雨が治まった後も、増水した水路やその他の危険な所は、近づかないなど安全に十分注意する。
- ・ 被害防止のため、以下の事前・事後対策を徹底する。

「事前対策」

- ① 収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等からの指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。
- ② 9月上旬からの降雨により排水路の機能低下が懸念されるため、雨が強まる前までに、ほ場周辺の排水路を点検・補修・整備するとともに、ゴミ等を取り除いて排水路からの逆流を防止する。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ③ 風当たりの強い地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ④ ハウス等の支柱や基礎部分などを点検・補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し、施設の被害防止に努める。
- ⑤ 強風による飛来物で、ハウス等の施設が損傷しないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
- ⑥ 停電や断水に備えるとともに、必要な資機材・燃料・応急資材を事前に確保する。

「事後対策」

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 茎葉や果実の損傷により病害の発生が懸念されるため、指導機関の指示に従い薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ 施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置・機械等を点検し、破損がある場合は速やかに修理する。
- ④ 台風通過直後は、突然の強風が発生する恐れがあるため、被害の拡大に注意するとともに、作業時は農作業事故が発生しないよう十分注意する。

○果 樹

「事前対策」

- ① 冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修する。
- ② 傾斜地のほ場では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③ マルチが敷いてあるほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、めくれたりしないようにマルチ押さえを補強しておく。

<棚栽培果樹>

- ① 9月上旬からの継続的な降雨により園地が軟弱化しており、さらに台風に伴う強風による棚のゆれで倒壊するおそれがあるため、つか杭を追加設置する。特に収穫前の園では、果実の重みにより棚への付加が増大しているため十分注意する。
- ② ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
- ③ ブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④ 防風網や防鳥網は、巻き上げるか、風で飛ばされないように固定部分を確認し、必要があれば補強を行う。

※簡易雨除けのほ場では、強風でビニール等が飛ばされないよう補強を行う。

<立木果樹>

- ① 倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ② 収穫前の園では、枝のゆれによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。

<施設果樹>

- ① ブドウの雨除けハウス等では、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを

巻き上げる。

- ② 施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。
特にビニールがめくれないようにマイカ線等の点検を徹底する。

「事後対策」

- ① 園地が滞水した場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ② 樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③ 太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤ 落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ ほ場を見回り、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。
特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦ 継続する降雨や台風に伴う強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、JAの指導や防除暦に従い薬剤防除と発病果などの除去を徹底する。
- ⑧ 継続する降雨に加え、台風に伴う強風や降雨により、次年度のモモせん孔細菌病、スモモ黒斑病の多発が懸念されるため、秋季防除は必ず実施する。
- ⑨ 収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。
- ⑩ 施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野 菜

「事前対策」

- ① ほ場周辺の排水路を点検、補修及び整備し、排水路からの逆流防止のためゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、必要に応じて排水溝を設け、速やかな排水に努める。
- ② 滞水による根傷みや湿害を軽減するため、明渠の設置や排水口の確保など、ほ場の排水性向上に努める。
- ③ 風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。また、マルチや資材類は飛散しないよう固定する。
- ④ ハウスや雨除け施設は、支柱、基礎、被覆資材及びマイカ線等を点検・補強する。また、台風の進路や風向き、施設の状況等を考慮し、必要に応じて被覆資材を除去又は巻き上げるなど、施設の被害軽減に努める。
- ⑤ ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強や誘引の見直しを行う。
- ⑥ 収穫期を迎えているものは、台風情報に注意し、必要に応じて速やかに収穫する。
- ⑦ スイートコーンは、受粉終了以降（絹糸抽出1週間後以降）に雌穂の上2葉以上を残して雄穂を切除するトッピング処理により、草丈が低くなり倒伏軽減効果が得られる。
- ⑧ 秋冬野菜の播種及び定植予定のほ場では、降雨による滞水や土壌の過湿を防ぐため、高畝や排水口の設置等により排水性の確保に努める。

「事後対策」

- ① 滞水しているほ場は速やかに排水し、長時間の過湿状態を避ける。
- ② 茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入などにより、疫病、菌核病、べと病等の発生

が懸念されるため、発生状況を確認し、防除基準に従って適切に防除を実施する。

- ③ ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果や腐敗果を早めに除去し、樹体の負担軽減と病害のまん延防止を図る。
- ④ 倒伏したものは速やかに引き起こし、支柱等で固定する。この際、根を痛めないよう注意する。ただし、スイートコーンは無理に引き起こすと根傷みを生じるので、原則としてそのまま管理し自然回復を待つ。
- ⑤ 秋冬野菜の播種後に強い降雨があった場合は、種子の流亡や発芽不良の有無を確認し、必要に応じて追いまきやまき直しを行う。
- ⑥ 定植後の苗に倒伏や欠株が生じた場合は、速やかに補植を行うとともに、活着促進のため適切な水分管理に努める。

○花 き

「事前対策」

- ① 野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ② ハウス外部等に設置している寒冷紗などは、強風による損傷を防ぐため巻き上げや補強を行う。
- ③ 露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ④ 鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

「事後対策」

- ① 滞水している場合は、速やかに排水を行う。
- ② 露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③ 茎葉の損傷により、べと病やうどんこ病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、予防散布を徹底するとともに、損傷した花や蕾は早めに除去する。

○水 稲

「事前対策」

- ① 浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ② 落水後の場合は事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③ 落水前の場合は深水にし、株の揺れを抑える。
- ④ 収穫機械、乾燥機等の整備をしておく。
- ⑤ ほ場ごとの成熟度合いを確認し、天候回復後、成熟が進んでいるほ場から計画的に収穫できるよう検討しておく。
- ⑥ 天日干しをしている場合は、上部をビニールなどで覆い、できる限り収穫物がぬれないようにする。

「事後対策」

- ① 浸水や冠水した水田では、早急に排水に努める。
- ② 強風で葉がこすれると、白葉枯病が発生することがある。薬剤散布は収穫前日数を確認してから行う。
- ③ 倒伏した場合、収穫時期に達しているものは排水後速やかに収穫する。収穫時期に達していないものは引き起こして数株ごとに結束する。
- ④ 収穫後の籾は水分含量が高く、劣化しやすいため、速やかに乾燥を行う。
- ⑤ 高水分籾は乾燥機への張り込み後、通風乾燥を行い、その後は35℃程度の低い温度で乾燥を始め、逐次昇温し乾燥速度を上げる。

○大豆

「事前対策」

- ① ほ場周囲に、排水溝を設置する。
- ② 滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

「事後対策」

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 病虫害の発生がないか確認し早期防除に努める。

○畜産

「事前対策」

- ① 畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ② 畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③ 停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう万全を期す。
- ④ 飼料用とうもろこしについては、被害軽減のために収穫作業を一部前倒して行うことも検討する。

「事後対策」

- ① 飼料作物
 - ・ 冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
 - ・ サイレージ調製時には、乳酸菌等添加剤を利用し安定した発酵促進を図るとともに、利用の際は、飼料分析を実施しサイレージの発酵品質等の確認を行ってから家畜に給与する。
- ② 家畜
 - ・ 個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に努める。
- ③ 畜舎
 - ・ 冠水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。
 - ・ 畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設の破損、汚染がないかを確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うよう努め、疾病等の未然防止に努める。
 - ・ 堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に努める。
 - ・ 雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。